

令和 6 年度

「運営に関する計画」
(自己評価・最終評価)

大阪市立城東幼稚園

令和 7 年 3 月

大阪市立城東幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 令和6年度、現在の園児数は75名、学級数は4クラスである。昨年より、学級数が1クラス減少した。本園の教育内容と、幼児教育の重要性について保護者や地域などへの啓発を図りたい。また、未就園児活動を含む子育て支援の充実を図る必要がある。
- いつ起こるかわからない災害や不審者等による事件発生時に対応するため、安全教育、避難訓練など、年間計画をたて取り組んでいる。さらに保護者や学校・地域との連携推進と、より様々な状況を想定した内容を工夫する必要がある。
- 園内での怪我や事故を減少させ、子どもが安全に園生活を送れるよう、実態を把握するとともに環境や指導法を見直し、安全、安心な幼稚園づくりのため、教職員や子ども、保護者と共に理解を図り、安全意識の向上に努めたい。
- 自他を大切にする気持ちをもつ子どもを育てたい。また、一人ひとりを大切にする教育の推進のため、教員の資質向上を図りたい。
- 家庭や地域で自然に触れる機会が少なくなっている。広い園庭を生かし、自然環境を豊かにし、見たり、触れたりする体験を通して、身近な自然への興味関心が深まるような環境構成の工夫と、就学前教育カリキュラムを活用し、幼児が主体的に遊び、知・特・体がバランスよく総合的に育まれるよう教育的意図をもった働きかけを工夫し、保育内容の充実に努めたい。
- 幼児期から基本的生活習慣を身に付けることが大切であると考える。そのために、幼児の実態把握、指導法の工夫、家庭との連携を図り、継続した保健指導と啓発方法の工夫に努めたい。
- 社会情勢の変化により、近隣の学校・保育所や地域、各関係機関との連携が希薄になっている。取り組み内容を見直し、地域に開かれた幼稚園づくりをめざしたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 避難訓練を積み重ね、子どもの防災意識を高める。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、避難訓練や安全指導などを定期的に行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」を90%以上にする。
- きまりやルールを守って、子どもが安全な幼稚園生活を送れるようにする。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園はきまりやルールを守って、安全に過ごせるよう環境や指導法を工夫している」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。
- 一人一人を大切にした教育を行う。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は幼児理解を深め、一人一人を大切にした教育を行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 就学前教育カリキュラムを活用し、保育の充実を図る。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが主体的に活動し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、教育的意図をもった働きかけを工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。
- 身近な自然を充実させ、子どもの興味や関心を育む。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが見たり、触れたりし、身近な自然に興味や関心をもてるような環境を工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。
- 基本的生活習慣の意識を高める。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を意識することができるよう、指導法を工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 教員の資質向上を図る。令和7年度教職員アンケートで「研修や園内研究会などを通して自分の資質向上を図ることができた」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。
- 地域に開かれた幼稚園づくりを目指す。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は家庭や地域との連携を大切にしている」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 避難訓練を積み重ね、子どもの防災意識を高める。令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は、避難訓練や安全指導などを定期的に行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を88%以上にする。
- きまりやルールを守って、子どもが安全な幼稚園生活を送れるようにする。令和6年度保護者アンケートで「幼稚園はきまりやルールを守って、安全に過ごせるよう環境や指導法を工夫している」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を88%以上にする。
- 一人一人を大切にした教育を行う。令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は幼児理解を深め、一人一人を大切にした教育を行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を88%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 就学前教育カリキュラムを活用し、保育の充実を図る。令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが主体的に活動し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、教育的意図をもった働きかけを工夫している」という項目について「そう思うか（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を88%以上にする。
- 身近な自然を充実させ、子どもの興味や関心を育む。令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが見たり、触れたりし、身近な自然に興味や関心をもてるような環境を工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を88%以上にする。
- 基本的生活習慣の意識を高める。令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を意識することができるよう、指導法を工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を88%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 教員の資質向上を図る。令和6年度教職員アンケートで「研修や園内研究会などを通して自分の資質向上を図ることができた」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を88%以上にする。
- 地域に開かれた幼稚園づくりを目指す。令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は家庭や地域との連携を大切にしている」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を88%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

・本年度の幼稚園運営では、子どもの実態把握をもとに、教職員での話し合いの積み重ねや共通理解を大切にし、各目標に向けての取り組みを、綿密に進めていくことができた。

・安全・安心な教育の推進

「避難訓練年間計画」に基づき、訓練を実施することができた。子どもへの具体的な指導と、保護者、地域への啓発ができ、防災意識が向上した。

きまりやルールを守るについては、ケガマップによる怪我の実態把握を行い集計した。グラフ化し、視覚的に分かりやすい子どもへの伝え方を考え、環境や指導法を工夫することができた。

一人一人を大切にした教育では、幼児一人一人を多面的に捉えられるよう実態から話し合いを重ね、個に応じた支援を継続した。幼稚園特別支援教育実践報告を行った。

・未来を切り拓く学力・体力の向上

知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、就学前教育カリキュラムを活用し、教師の働きかけについて話し合い、環境の再構成を行った。プレゼンテーションや手紙、写真掲示、保育室降園などで、教育の発信や啓発を行った。

身近な自然の充実では、年間計画に基づき環境を再構成した。子どもと共に栽培や収穫を行い、関連した内容を保育に取り入れることで、子どもが主体的に身近な自然に関わる、身近な自然を大切に育てる、遊びに取り入れるなど、身近な自然への興味や関心が高まった。

毎月保健指導を実施した。子どもが主体的に取り組み、健康的な生活習慣が身につくよう養護教諭・担任・家庭が連携することで成果があった。また、子どもの発達や実態から、保健指導の内容や掲示物の工夫をしたことで、子どもや保護者の健康に関する意識が高まった。

・学びを支える教育環境の充実

教員の資質向上では、研修に積極的に参加し、各自の学びを深め、それを全教職員で共通理解した。

園内研究会を計画通り行うことができた。研究討議では、子どもの姿を多面的に捉えたり、自身の保育を振り返ったりし、自身の資質向上に努めることができた。

教育内容や子どもの育ちなどを、様々な機会に保護者に伝え、幼稚園教育への理解を得ることができた。保護者ボランティアの協力を得、保護者の力を教育に生かすことができた。

小学校、保護者ボランティアなど、地域の資源や教育力を活用したことで、開かれた幼稚園づくりにつながった。

大阪市立城東幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【3つの最重要目標】</p> <p>園の年度目標</p> <p>○避難訓練を積み重ね、子どもの防災意識を高める。令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は、避難訓練や安全指導などを定期的に行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を88%以上にする。</p> <p>○きまりやルールを守って、子どもが安全な幼稚園生活を送れるようにする。令和6年度保護者アンケートで「幼稚園はきまりやルールを守って、安全に過ごせるよう環境や指導法を工夫している」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を88%以上にする。</p> <p>○一人一人を大切にした教育を行う。令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は幼児理解を深め、一人一人を大切にした教育を行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を88%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な非常災害時を想定した訓練を通して、自らの安全を守るための意識や態度を育む。 ・保護者、地域、小学校と連携し、災害や非常時においての対策の見直しや訓練の計画、実施を行う。 <p style="text-align: right;">(防災・減災教育の推進)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な非常災害時を想定し、P D C A S サイクルを用いた避難訓練を年10回行う。 ・絵本や紙芝居、視覚教材などを用いた指導を学期に1回行う。 ・安全だよりを年3回以上発行し、保護者、地域、小学校に啓発する。 ・年1回、保護者・地域と合同避難訓練を行う。 	B
<p>取組内容②【1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怪我が起きやすい活動内容や場所などの実態把握をする。 ・園内環境の見直しを行い、安全な遊び方についてのきまりやルールを教職員で共通理解し、実態に応じた指導法を工夫する。 ・取組内容を保護者に啓発する。 <p style="text-align: right;">(安全教育の推進)</p>	

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回、ケガマップをつくり、実態把握をする。 ・安全点検、環境整備を月1回教職員で行い、年3回園児やPTAと行う。 ・月1回以上、安全に関する指導をする。 ・掲示や配布物などで、年2回以上保護者に啓発する。 	B
<p>取組内容③【2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園特別支援教育実践報告を行う。 ・いろいろな友達のことを知り親しみを持てるような活動の工夫をする。 ・保護者や関係機関と連携し、一人一人に応じた指導法を工夫する。 <p style="text-align: right;">(インクルーシブ教育の推進 人権を尊重する教育の推進)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育推進教室と年3回以上連携する。 ・園内委員会を学期に1回、幼児理解についての連絡会を月1回行う。 ・個別の指導計画、視覚的な教材を作成し、学期に1回見直す。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は、避難訓練や安全指導などを定期的に行っている」の項目について肯定的回率は「そう思う」100%であった。 ・「避難訓練計画案」に基づき、様々な非常時災害時を想定した避難訓練を、PDCASサイクルを用いて計10回実施した。 城東警察署、大阪府警本部と連携し、不審者訓練（11月）と防犯教室（1月）を実施した。警察署の方が不審者役をしたり、誘拐劇を見たりして、安全に過ごすための約束を確認したこと、子どもたちは自分の身を守る方法を再確認することができた。 ・絵本や紙芝居、視覚教材などを用いた事前指導を計10回行った。避難訓練を積み重ねたことで、各学年に応じて、災害が起きた時に自分で考えて行動する姿につながった。以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ○火災時は、ハンカチで口・鼻を抑えて、出火元から離れた場所に避難する。 ○地震が起きた際は、揺れている間、机や椅子の下に入り、脚の部分を持って頭を守る。 ○不審者が園内に侵入してきた時の合図や避難方法を知り、速やかに行動する。など ・安全だよりを学期に1回、計3回発行した。保護者、地域、小学校に配布し、園の取組を啓発した。 ・保護者との合同避難訓練を年2回実施した。 1月、保育室降園時に地震を想定した合同避難訓練を実施した。大きな災害が起きた時、自分はどこにいるか・誰と一緒にいるかなどによって避難方法が変わること、自分の命を守るために行動、共助の気持ちで避難するなど、保護者・園児共に災害対策について考えきつかけになった。保護者も実際に訓練に参加することで、防災意識が向上した。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度保護者アンケートで「幼稚園はきまりやルールを守って、安全に過ごせるよう環境や指導法を工夫している」の項目について肯定的回率は「そう思う」92%、「どちらかといえばそう思う」8%合わせて100%であった。 ・ケガマップを5月、9月、11月、2月の年間4回実施した。5月は外遊びでの擦過傷、9月は室内での打撲、11月は擦過傷が多かった。時期、学年によっても怪我の種類や 	

件数がちがっていることも把握できた。詳しい実態は安全だよりに掲載している。

- ・安全点検、環境整備を月1回、教職員で行った。時期に応じて不要な物は片付けたり、危険な箇所を改善したりして環境整備を行っている。5月に5歳児、11月に4歳児、2月にPTA役員による安全点検を計3回行った。幼児自身が安全点検することで、その後も大きな石を拾ったり、遊具を元の場所に片付けたりするなど安全意識が高まっている。PTA役員による安全点検では、保護者の視点での気付きがあり、すぐに改善した。
- ・月1回以上、担任や養護教諭による安全に関する指導を行った。
 - 各クラス毎月、多様な動きを経験できるよう、体を動かす遊びの内容を工夫したことで、年齢や発達に応じた体幹やバランス感覚などの育ちが少しずつ見られ、怪我の防止につながった。
 - 擦過傷が多くみられた5月には、正しい靴の履き方や足指の体操の指導を行った。その後、6月には擦過傷の件数が減少した。
 - 室内での打撲が多くみられた9月には、周りをよく見て行動することの大切さや、保育室で走らないことを指導した。その後、10月には打撲の件数が減少した。
 - 水筒を持ち歩く際に怪我をする件があったことから、幼稚園での水筒の持ち歩き方について教職員で共通理解をして安全指導を行った。その後、水筒を持ち歩く際での怪我はなかった。
- ・保育室降園時に安全に関する指導で使用した教材を掲示したり、7月、10月、12月に安全だよりを発行したりして、安全に関する取り組みについて保護者啓発を行った。

取組内容③

- ・令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は幼児理解を深め、一人一人を大切にした教育を行っている」の項目について肯定的回答率は「そう思う」87%と「どちらかといえばそう思う」12%合わせて99%であった。
- ・インクルーシブ教育推進室4回、外部講師6回の指導を受け「一人一人の違いを知り、共に育つ」を主題とし、幼稚園特別支援教育実践報告を行った。実践報告をまとめるにあたり教職員で繰り返し討議をすることで、幼児の姿を多面的に捉えることができ、主題にせまる報告ができた。幼児理解が深まり、幼児一人一人を大切にした保育に繋がった。
- ・園内委員会を学期に1回、幼児理解についての連絡会を月1回行った、事例から、幼児の姿を多面的に捉え、個に応じた支援を教職員で共有し、一人一人を大切にした保育を進めた。
- ・個別の指導計画、視覚的な教材を学期に1回見直した。ねらいや教師の具体的方策を振り返り、幼児の育ちと課題を明確にして次の支援を考えたことで、一人一人が安心して園生活を送ることに繋がっている。

次年度への改善点

取組内容①

- ・子どもたちの防災意識がより高まるよう、子どもの実態に応じて、様々な非常災害時を想定した指導方法を工夫する。
- ・隣接する福祉会館へ避難訓練計画案を持参する前に、実施する日程を相談し、参加を呼び掛け、地域や関係機関と連携を図る。

取組内容②

- ・学校安全計画に、ケガマップ、幼児による安全点検、PTAによる安全点検を位置づけ、

毎学期毎に確認して計画的に実施する。

- ・担任と養護教諭が連携した安全指導を継続して行う。

取組内容③

- ・教職員間で話し合う機会を積極的にもち教職員の連携を大切にし、幼児一人一人を多面的に捉え、個に応じた支援を考え、保護者や関係機関との連携を図る。
- ・インクルーシブ教育の学びをより教師が深め、支援ができるように、専門的に学び教師の資質向上につなげる。

大阪市立城東幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【3つの最重要目標】</p> <p>園の年度目標</p> <p>①就学前教育カリキュラムを活用し、保育の充実を図る。令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが主体的に活動し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、教育的意図をもった働きかけを工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答割合を88%以上にする。</p> <p>②身近な自然を充実させ、子どもの興味や関心を育む。令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが見たり触れたりし、身近な自然に興味や関心をもてるような環境を工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を88%以上にする。</p> <p>③基本的生活習慣の意識を高める。令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を意識することができるよう、指導法を工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を88%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【3、幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>就学前教育カリキュラムを活用し、子どもが主体的に活動し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、教育的意図をもった働きかけを工夫し、保育の充実に努める。（就学前教育カリキュラム等に基づいた教育の推進）</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案会議を月2回行い、子どもの実態把握を深め、教育的意図をもった働きかけについて討議する。 ・就学前教育カリキュラムを活用し、指導計画を毎月見直し、教育課程を改訂する。 ・プレゼンテーション、紙面配布、掲示物などを活用し、年3回以上保護者に啓発する。 <p>取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>身近な自然への興味や関心を高め、主体的に遊べる環境を工夫する。（「主体的・対話的で深い学び」の推進）</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培の年間計画を立てる。 ・身近な自然を取り入れて遊べる環境を、月1回見直す。 	B

<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境マップを年3回作成する。 <p>取組内容③【5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣が身につくよう、子どもの実態に応じた指導法を工夫する。 (健康に関する現状課題への対応) 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画を作成し、生活調べを年3回実施する。 ・生活習慣に関する保護者アンケートを年2回行い、結果を報告する。 ・子どもの実態に応じた保健指導を月1回行い、保護者啓発を行う。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもたちが主体的に活動し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、教育的意図をもった働きかけを工夫している」という項目について肯定的回答率は、「そう思う」91%、「どちらかといえばそう思う」9%合わせて100%であった。 ・月2回の週案会議を行った。担任間で幼児の姿を多面的に捉え、共有し、実態把握を深めた。教師の教育的意図をもった働きかけや具体的な保育内容などを討議し、環境を整えたことで、幼児は主体的に活動するようになった。 ・就学前教育カリキュラムを活用し、幼児の実態に応じて毎月、指導計画の見直しを行ったことで、保育の振り返りや改善につながった。3月に教育課程を改訂する予定である。 ・保護者啓発として、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれる姿について、プレゼンテーション2回、「えんちょうしつだより」3回、写真掲示2回で知らせた。保護者に視覚的に分かりやすい方法を工夫し、園での取り組みや幼児の姿を啓発することで、知・徳・体をバランスよく総合的に育めるような保育について、保護者の理解につながった。 	
<p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度保護者アンケートで、「幼稚園は、子どもが見たり触れたりし、身近な自然に興味や関心をもてるような環境を工夫している」という項目について肯定的回答率は、「そう思う」99%「どちらかといえばそう思う」1%、合わせて100%だった。 ・自然物を取り入れて遊ぶことができるよう栽培計画とともに遊びの計画も立て、年間計画に沿って進めることができた。来年度に向けて種取りをしたり、うまく育たない時は子どもと一緒にどうするかを考えたりして、子どもが主体的に身近な自然に関わることにつながった。 ・身近な自然を取り入れて遊べる環境を、中間報告以降も以下のように見直した。 <ul style="list-style-type: none"> ○お米ができるまでの過程に関心をもち、お米を大切に思う気持ちが育つように、イネの栽培、収穫、脱穀、精米を行った。精米の方法を自分たちで考え、身近な道具や素材を使って試した。 ○園庭の自然に親しめるように、5歳児は園庭のドングリや桜の枝、子どもが種を撒いたジュズダマなどを使って飾りつくりをした。またマリーゴールド、桜の葉、レモングラス、アイの葉を使って染め物遊びをした。4歳児は、ドングリ転がしや摘んでもよい花を使ってお花屋さんを楽しみ、3歳児は、ドングリで楽器をつくって遊んだ。 	

○園内でサツマイモ掘りをした。園庭を広く使って遊ぶことができるよう、2クラスずつ園庭に出ることで、収穫したツルで綱引き、縄跳び、電車ごっこなどを楽しんだ。

また、保護者ボランティアの協力でツルのリースをつくってもらい、飾りつけを楽しんだ。

○水が氷になることを知り、見たり、触れたり、自分たちで氷をつくったりできるよう環境を整えた。

これらの環境から、子どもたちは身近な自然環境に興味・関心をもち、好きな遊びに取り入れて楽しむことができた。

- ・自然環境マップを3回（6月・7月・12月）作成、掲示した。年間を通して環境マップを作成することで、その季節ならではの自然との関わりを振り返ることができた。

取組内容③

- ・令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を意識することができるよう、指導方法を工夫している」という項目について肯定的回答率は、「そう思う」100%だった。

- ・学校保健計画では、生活調べは年3回の予定であったが、幼児の実態から保健指導の内容に応じた生活調べを計9回実施した。

○生活調べの結果から夜9時までに寝て、朝9時までに登園する習慣が身に着けられるよう、「くじられっしゃ週間」の取り組みを行った。活動を通して、保護者から「時計を意識して過ごしている」という声も聞かれ成果があった。

○食への興味・関心が高まるよう、『やさいかーど』を長期休業に2回行った。「野菜を積極的に食べるようになった」「1口頑張って食べていた」など、野菜を食べるきっかけになった。また、保護者からのレシピを集め『じょうとうレシピ集』を作成し2回配布した。

- ・生活に関する保護者アンケートを2回実施し、年度当初と年度末の結果を比較し、保健だよりを通して保護者啓発を行った。肯定的な回答が上がった項目は「手洗い・うがいをする習慣」「好き嫌いがあるか」「歯磨きをする習慣」「おやつの量を決めている」「テレビ・スマートフォンの使用時間を決めている」「朝トイレの習慣」だった。

- ・学校保健計画を見直し、保健指導を計12回実施した。指導後は、使用した教材を保健室前の掲示板に掲示し、子どもたちが指導内容を思い出せるようにしたり、保護者にも内容が分かりやすいようにホワイトボードで掲示を行ったりした。また、コドモンを活用し保健だよりを配信することでいつでも指導内容を見返せるようにした。

次年度への改善点

取組内容①

- ・保育室降園を有効に活用して、保護者啓発の方法を検討する。

取組内容②

- ・フェンス改修工事によって園庭や裏庭の環境が変わることを踏まえ、新たな年間計画を立てる。

- ・身近な自然を保育に取り入れられるよう、教職員が教材研究をする。

取組内容③

- ・子どもたちがより健康的な生活習慣を意識できるように、継続した指導方法を工夫する。
- ・保護者も一緒に健康的な生活習慣を意識し、子どもと一緒に取り組めるように、保育室降園や保護者会の時間を活用し啓発する。

大阪市立城東幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【3つの最重要目標】</p> <p>園の年度目標</p> <p>①教員の資質向上を図る。令和6年度教職員アンケートで「研修や園内研究会などを通して、自分の資質向上を図ることができた」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を88%以上にする。</p> <p>②地域に開かれた幼稚園づくりを目指す。令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は家庭や地域との連携を大切にしている」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を88%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアステージに応じた研修に積極的に参加する。 ・保育指導案を作成し、園内研究会を実施する。討議会をもち保育を改善し、教員の資質向上に努める。 <p>（教員の資質向上・人材の確保）</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員一人につき年に3回以上、研修に参加して伝達する。 ・園内研究会を年5回行う。討議会をもち、保育内容の改善を図る。 	B
<p>取組内容②【9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育室降園、保育参観、行事などを通して、子どもの姿を保護者と共有し、幼稚園教育への理解を図る。 ・近隣の小学校、様々な人材など、地域の資源や教育力を園の教育に取り入れる。（教育コミュニティづくりの推進） <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育参観、保育室降園、行事などの機会に、幼稚園の教育内容を学期に1回、保護者に発信する。 ・年3回、保護者ボランティアを募り、保護者の力を教育に生かす。 ・年5回以上、近隣の小学校、様々な人材など、地域の資源や教育力を活用した活動を工夫する。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度教職員アンケートで「研修や園内研究会などを通して、自分の資質向上を図ることができた」の項目についての肯定的回率は「そう思う」100%だった。 ・教職員1人3回以上研修に参加することができた。キャリアステージに応じた研修(OJT3回、絵画研修3回、就学前教育カリキュラム研修会3回など)を受け、自分の保育を見直し、教職員の連携の仕方、子どもの実態に応じた環境構成などを学ぶことができた。

- ・研修の内容は、様々な機会に具体的に伝達したり、資料を回覧したりして共有した。
- ・前期3回、後期2回、年5回園内研究会を行うことができた。10月18日に園内研究会を行い、大阪市総合教育センター 教育指導員の指導を受けた。大阪市教育センターの保育力向上アドバイスシートを利用して、研究協議会を行い、子どもの姿を多面的に捉えたり、自身の保育を振り返ったりした。環境の大切さや見通しをもった保育が活動の充実につながることを再確認し、保育内容の見直しや改善を行い、教員の資質向上に努めることができた。

取組内容②

- ・令和6年度保護者アンケートで「幼稚園は家庭や地域との連携を大切にしている」の項目についての肯定的回率は「そう思う」95%「どちらかといえばそう思う」5%、合わせて100%だった。
- ・運動会、作品展、音楽発表会、生活発表会、その他の行事年7回の様子を、保護者に見てもらった。子どもの姿から、子どもの育ちを保護者の方に伝えることができ、園の取り組みを発信する機会になった。
- ・5月、6月、9月、10月、11月、1月、2月に、保育室降園を行った。教育内容の話や親子で一緒に体操や手遊び、合同避難訓練などをすることで、より具体的な園の教育内容やクラスでの取り組みなどを啓発する機会になった。
- ・7月、12月の終業式では、パワーポイントを活用し、就学前教育カリキュラムの内容を交え、学びにつながる姿を具体的に伝える機会になった。
- ・園外保育、ふれあい動物村、イモほりなどで保護者ボランティアを募り協力を得た。事前に計画やお手伝い内容を紙面に掲載し伝達することで、一緒に参加してもらい、子どもの姿を通して教育内容を知ってもらう機会になった。
- ・年6回、地域の方と関わることができた。

幼稚園内の梅の収穫、盆踊り、夏祭り、敬老の日の集い、年4回、地域の方との関わりをもち、地域の方への親しみや地域の一員であることの自覚が芽生えた。

小学校との関わりは、1年生に学校内を案内してもらう、給食の様子を見学したりする、年2回行った。幼小が連携していることは、保護者の安心感や、子どもの小学校への憧れや期待にもつながった。

- ・月2回ふれあいランド、月1回りす・うさぎの未就園児活動を行った。
- 未就園児の保護者から、「園児に優しく関わってもらった」「幼稚園での遊びを経験することができる」など、肯定的な意見が聞かれ、幼稚園の雰囲気や生活を知ってもらう機会になった。また、園児は、未就園児との関わりを通して、小さい友達に親しみや思いやりの気持ちをもつことができた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・キャリアステージに応じた研修に積極的に参加し、学んだことを整理し、具体的に分かりやすく伝えられるように、自己研鑽に努める。また、教職員一人一人が、自己の課題に気付き、課題実現に向けて改善し、資質向上に努める。

取組内容②

- ・園児と小学生がより関わりをもち、架け橋期について教員が共に考える機会をもてるよう、小学校に働きかける。(小学生が幼稚園に遊びに来るなど)